



超現代語訳「病幼院創立意見」

病幼院創立意見と雑誌「江戸」

明治も末になると、旧幕臣を中心に江戸期の事跡を残すためにいくつかの雑誌が出版された。

「江戸」はそのひとつで、江戸旧事采訪会による。明治末に徳川の遺臣が記録の散逸を恐れて出版したものである。平山省齋の子孫が、出版元の『江戸旧事采訪会』の主要メンバーで、平山家資料によるとと思われる記事も多い。この雑誌が出る頃、平山家に伝わる文書を典拠に作られたものと推察される。

その中に**病幼院創立意見**がある。提出したのは目付**大久保右近将監忠寛**。

この人は、幕末にペリーの黒船が来航したとき、老中の阿部正弘が再編成した海防掛に抜擢された 500 石の中堅旗本である。当時講武所設立に関与しており、新設された**蕃書調所**の総裁に兼務で任命されている。当時古賀謹之助が頭取として蕃書調所の準備を整えていたが、大久保総裁が突然上から降ってきて、相当不満であったようだ。此のときの総裁職の期間は短く、**病幼院創立意見**提出直後に長崎奉行に任命されている。しかし赴任を辞退したために、抗命のために駿府奉行に左遷されている。

長崎奉行の後任に岡部長常が赴任しているが、この時期にオランダの海軍伝習所にオランダ軍医ポンペが来日し、医学伝習所、その実習の場として長崎養生所が作られたが、これが日本における西洋式の近代病院の初とされ、今日の長崎大学医学部の源流とされている。病院建設のとき、ポンペは長崎奉行・岡部永常の理解と協力を激賞している。当時の長崎の海軍伝習所では、永井尚志、岡部永常、木村喜毅ら、江戸幕府開明派が実務に当たっているが、大久保忠寛(後に隠居名・一翁を名乗る)の同輩・後輩の近い関係にあり、そこには幕府開明派の西洋医学に対する共通理解がある。勝海舟は、大久保が発掘し育てた 7 歳下の微禄の旗本で、伝習生である。

病幼院創立意見原文のコピーの一部は、額装して展示ケースに飾ってあるが、理解しやすいように超現代語訳し、横書きにした。上記写真は、幕末に開成所で撮影された大久保忠寛(隠居名・一翁)。(稲松孝思)

超現代語訳 病幼院創立意見

「蕃書調所」が作られ、蘭学もだんだん盛んになってきました。近頃、西洋各国では一般に慈悲仁恵を重んずるようになり、各国の首府では、病院や幼院をつくり、鰥寡孤独(かんかこどく:独居のやもめ、孤児)を可哀想に思ってお世話するようになってきました。江戸には以前から**小石川養生所**があり、困っている人のお世話をしてきましたが、費用もかかり、いろいろ面倒もありますので、永続的なやり方、資金繰りを考えた上で、私案を提出しますのでご検討願います。

病院

1. 医師
 - 医長 200 俵 1 人
 - 副医長 150 俵 2 人
 - 管理職は世襲せず。(小石川療養所後期の沈滞は、肝煎・小川家の世襲が一因)
 - 医師 10 人
 - 藩醫、町醫などにかかわらず、西洋医学を勉強し、治療の腕の良い人を選んで。(幕府と諸藩、武士と町民の垣根を取り払っている。蕃書調所・大久保の共通原則)
 - 給与は一人 10 人扶持 半日ずつ当番制で勤務、治療を専門にする。計 180 石
 - 薬料は 1 貼銀 5 分で、毎月支給、詳細は別添
 - これまで醫藥館と小石川養生所などで厚くお世話し、薬種なども支給してきたが、その弊害もあり、(一括支給、ピンはねが小石川養生所で横行)実際に治療した分だけ、支払うようにする。
2. 介保人 170 人(利用者 3 人に一人)
 - 西洋医家で修行中の人で、病人を実際に臨床で数日お世話している間に、種々の工夫し治療方法もうまくなる。医術修行中のひとは、病家に泊り込み、数日介保方法を修行する。前述の医師は、門人・塾生などの中で、師匠の見込みを以て介保者にする。なお、病人 1 人に付 1 日銀 3 匁ずつとし、介保料を支払う。
 - 病人 500 人と見積もって、1 か年銀 1,400 貫目
3. 利用者(患者)

- ・薬料・・・病人 1 人に付き 5 貼/日
- 一日銀 1 貫 250 匁 1 月 37 貫 500 匁
- 1 年銀 450 貫
- ・扶持米・・・1 月 75 石 1 年 900 石
- ・塩、味噌、雑費・・・1 日 銀 2 貫 500 匁 1 月 75 貫目
- 1 年 900 貫目
- 4. 医師 3 人の賚料:勤務時
 - ・米 1 ヶ月 4 斗 5 升 1 年 5 石 4 斗
 - ・塩、味噌、雑費:1 日銀 6 匁 1 月 180 匁 1 年 2 貫 60 目
- 5. 介保人
 - ・米 1 ヶ月 25 石 5 斗 1 年 306 石
 - ・塩、味噌、雑費:一人に付き銀 2 匁
 - 1 日 500 目 1 月 16 石 200 目 1 年 194 貫 400 目
- 6. 幼院を兼ねて取締役人 1 人(事務長)
 - 1 年の役料 20 人扶持 この石数 36 石 お役金 15 兩
 - 信実綿密な人物。お目見え以上持高は廉い方が 良い
- 7. 幼院を兼ね雑用掛 8 人
 - 1 年 10 人扶持 石数 144 石
 - お役金・・・20 兩 1 年 160 兩
- 8. 病人夜具
 - 500 人前 一揃い 3 兩 全 1,500 兩
 - 繕い、予備含めてこれ位
- 9. 雑具類そのほか雑用
 - 医師、介保人病人あわせて 673 人
 - 一人に付き 2 分 1 年 336 兩 2 分
 - 米 1,391 石 4 斗 金 2,011 兩 2 分 銀 2,946 貫 560 匁 計:52512 兩 1 分 1 朱 5 分 1 厘(但し 1 国 1 兩の積もり)

幼院

- 小児 300 人収容の予定
- 1. 白牛 100 匹
 - 金 300 兩 但し 1 兩/匹
- 2. 牛飼い 50 人
 - 1 月 15 石 1 年 180 石 1 年 250 兩 二人口 5 兩

3. 扱女 300人
 扶持 1月 45石 1年 540石
 賄い料 1月 600目 1年 7貫 200目
 給金 1年 1,500両 (5両/日)
4. 小児、阿母 夜具 300人前 一揃い 3両 1年 3,000両
5. おむつ料 一人につき 1両 1年 300両
6. 衣服料(1歳以上) 一人に付き夏冬共 2両 1年 600両
7. 於御場所? 小児 300人扶持 1月 45石 1年 540石
8. 同雑用 一人 2匁 1月 600目 1年 7貫 200目
9. 雑具代 2分/人 1年 300両
 計 1,260石 5,950両 銀 14貫 400目
 総計 金 7,450両

病幼院全体で 金 59,962両 1分 1朱 5分 1厘

凡その支出を調べた所上記の通りであった。此の支出は官庫に頼らず、人々にも迷惑にならないよう、方法をいろいろ熟考し、江戸の家持町人に其の趣旨を説明し、1年に1両ずつ上納し、病幼院の必要経費を賄えば支障はない。(七部積金のような資金計画)

寄付を納金して貰うのも有り難く、人々の差し出す費用はとってもし意義のあるものです。御仁徳限りなく施す趣旨が生きてお思います。江戸府内の家持町人の調査をしたところ、町奉行所支配の分だけで13,822人程います。これらの人に年1両ずつ出してもらうと、一月銀5匁、1日に割ると銀1分6厘7毛ずつとなり、抛出する側にも意義深い。それでも、余分に上納することになり、少額でも負担に思うでしょうから、年々の祭礼にかかるお金の内、家持町人一人に付差し出す1両を減らし、病幼院の用途に回すよう仰せつけば、より一層差障りは少ないでしょう。地位の高い人やお金持ちの寄付もあるでしょう。家持町人の一人平均1両、総計13,822両を集める予定ですが、地位の高い人、お金持ちはもっと出してくれるように奉行から仰せつけければよいと思います。

この上納金を両方の施設の費用に使い、余った分は、身元の確かな町人に両施設の必要なものを納めさせる費用として、金50両に付銀15匁の利息で貸出します。利息収入がだんだん増えてくれば年々元金に加え、だんだんそれが増えてくれば、病人や子供で施設を使いたい人が多数に増えても、差障りなくなるのではないのでしょうか。

上記の出費と貸付金の運用方法はこのようです。

1. 江戸の家持町人13,822人
2. 年に1両納めると一年で総額は13,822両
3. このうち病院費用は7,520両、幼院費用は2,152両3分と100文 計金9,772両と100文
4. 残金4,493両3分 永150文

病院幼院創立意見の背景とその後の展開

蕃所調所の最初の具体的な仕事として提出されたのが、この大規模な西洋版小石川養生所の創設意見である。その直後に大久保忠寛は長崎奉行の辞令が出たのだが赴任せず、懲罰的駿府町奉行の辞令が出て赴任することになる。長崎奉行の後任には水野忠徳勘定奉行の兼任のあと、岡部永常が赴任し、翌年ポンベの提案を実現する長崎養生所の建設が幕府の手で行われた。江戸では西洋医学の導入に反対する漢方の多紀一派の抵抗を抑えてお玉が池の種痘所が作られ、翌年には官営の西洋医学所となった。咸臨丸はサンフランシスコ出発時、乗員に熱病が流行し、アメリカ海員病院へ入院させたが、これを仕切ったのが船医の牧山脩卿である。彼は帰国後、西洋医学所の頭取となっている。文久遣欧使節団の任務のひとつに『夷情探索』があり、当時の蕃書調所頭取を大久保一翁が勤めている。大久保は箕作や、福沢諭吉などの蕃書調所スタッフをこの任務のために派遣している。

これらの情報は幕末の騒乱の中で生かすことは出来なかったが、明治になってからの駿府藩立病院、東京での養育院・東京府病院の建設へと繋がっていくのである。

このうち金1,000両は建築費
 残り3,049両3分永150文
 年々の両施設の運営に使用した残金は、貸し出し、利息は計算の通りです。ただし年5分

- 初年度の元金…3,049両3分永150文
 この利金152両一分永150文
- 2年目…元金3,202両1分永45文 このうち3,202両145文
 初年元利合計4,049両5分永150文
 この利金362両2分永114文8分
- 3年目…元金10,642両3分永59文8分
 このうち7,614両3分159文8分
 2年元利合計4,049両5分永150文
 この利金583両永240文4分
- 4年目…元金16,297両3分永100文3分
 このうち12,248両永50文3分
 3年元利合計4,049両5分永150文
 この利金814両永3分永147文5分
- 5年目…元金21,160両2分永247文8分
 このうち17,112両3分永97文8分
 4年元利合計4,049両5分永150文
 この利金1,058両永137文4分
 元利合計22,220両3分永135文2分

右の通り準備金が年々増加する件については、差し支えはありません。仁政が行き届くようになるでしょう。場所については高爽地でなければ、療養も幼育も行き届かかねるので、三番町御薬園を、病幼院全体の立地にして頂きたい。ほかの詳細はそれぞれの掛に言いつけ、経験しながら順次述べてゆきたい。見込みの概略を調べ町奉行に提出した案を添え、以上を申し上げます。

安政4年正月 大久保右近将監忠寛(⇒幕閣に提出)

今度病院幼院は番町御薬園へ建築され江戸府内の鰥寡孤独で難渋している下々末端まで、順次援助する趣旨です。就きましては府内の家持町人は1年に1両ずつ、このような用途の為に納めてください。尤も地位の高い方、金持ちも居ますので、神事、祭礼など、無益の町入用を減らし、地面1箇所につき平均1両渡してください。このお金の納め方の詳細は、掛が居ますのでご相談ください。(江戸)

◆解説…昭和51年、東京市史稿編纂者の意見

案ハ平山敬忠(省齋)筆ニ成ルト云フ。幕府多事ノ際之ガ実施ヲ見ルニ至ラザリキト雖、現時ノ養育院制度ノ夙ニ有識者間ニ唱道セラレタルヲ推知ス可シ。

幕府開明派の西洋医学導入

- 1845: 海防掛再編: 阿部正弘(川路聖謨、永井尚志、大久保忠寛、木村嘉毅)
- 1855: 海国図志を江戸で出版: 塩谷甲蔵、箕作阮甫、川路聖謨
- 1857: 病幼院創立意見: 蕃書調所総裁 大久保右近将監忠寛
- 1857: 長崎医学伝習所・長崎養生所: ポンベ、岡部永常長崎奉行
- 1858: お玉が池種痘所: 川路聖謨、伊藤玄朴…坪井信良、牧山脩卿
- 1860: 遣米使節・咸臨丸桑港病院体験: 牧山脩卿、福沢諭吉、(佐野鼎)
- 1862: 竹内遣欧使節、夷情探索: 箕作阮甫、松木弘安、福沢諭吉、佐野鼎、大久保一翁(忠寛隠居名)
- 1867: 徳川昭武パリ万博使節団(渋沢栄一、高松凌雲、A、シーボルト)

明治維新後

- 1869: 藩立駿府病院・沼津病院・沼津兵学校
- 1869: 救育所: 芝、麴町(七分積金による)
- 1872: 養育院(七部積金による): 大久保一翁、渋沢栄一
- 1873: 東京府病院: 大久保一翁、坪井信良、牧山脩卿
- 1874: 渋沢栄一…養育院の維持・運営、
- 1891: 渋沢栄一・慈恵会(東京府病院下取)の財政基盤確立